

## 園だより 11 月

あなたはすべてを知恵によって成し遂げられた。

地はお造りになったものに満ちている。

詩篇 104 章 24 節

朝夕の空気の冷たさを感じる季節になりました。朝の子どもたちからのお土産も秋の自然物に変わりました。季節の深まりを楽しみながら過ごした10月の日々、秋風に誘われて、子どもたちの遊びは益々広がりました。園生活にゆとりが出てきた年少の子どもたち、年中長の子どもたちの遊びに興味津々、心を動かされ、嬉々として仲間に入っていく子、傍で同じような遊びを展開する子、と異年齢が共に遊ぶ姿が、あちこちで見られました。設定された異年齢の関りではなく、子どもたち自らが魅力を感じ、関りを持ち、展開している異年齢の交わり。年中長さんが繰り広げる遊びに吸い寄せられるような眼差しを送る年少さんの様子には子どもたちのワクワクが溢れています。年中長の子どもたちも、優しく受け入れる子、困ったなあと少々困惑する子、と様々な心の動きを経験しています。年少の子どもたちにとって、時には迷惑がられたり、思い通りに行かないこと、理不尽な思いなどを感じる経験もしています。年中長の困惑も含め、一見「負」の経験のように思われる様子も見られますが、それこそが昨今では中々得難い貴重な経験のときであると私たち保育者は捉えています。人それぞれの思いを感じることで豊かなコミュニケーション力の育みが成されます。10月の日々も遊びを通して様々な学びが成されていたことを嬉しく思います。

また、10月は恵まれた天候の中、幼稚園全園児揃っての運動会を開催することが出来ましたこと感謝でした。保護者の方々には多くのご理解とご協力を頂きました。子どもたちの可愛い、精一杯の姿を多くの方々にご覧頂けなかったことは大変残念でしたが、『コロナ禍の中でも、子どもたちの「今」を大切に』を一番に考え、運動会までの日々を過ごし、まだまだ感染力の衰えていない新型コロナウイルス対策を最優先にしながら子どもたちにとっては日常の流れの中で運動会の日を迎え、その後の日々もそれぞれに楽しみ過ごしました。過ごし易い秋の季節、伸び伸びと体を動かし豊かな心が育まれた子どもたち、11月はアドヴェントを迎えます。少しずつ心静かに過ごす日々へと移行していく中、子どもたちそれぞれの心で受け止める穏やかで温かなときを大切に過ごしたいと願います。変わらないお支えを宜しくお願い致します。

園長 駿河 幸子

